

青木止竟 （号する） 支那文學者、文學博士。明治二十年二月十四日山口縣生れ、昭和二十九年十一月一日歿（二六七一丸）。字君雅。號守拙蓬廬、迷陽、迷陽山人、迷陽逸人等。明治四十四年京都帝國大學文科大学支那文學科卒業。大正九年小待馬<sup>たごうま</sup>馬等と雜誌『支那學』創刊。支那留學を経て、十五年東北帝大、昭和十二年京都帝大、二十四年山口大學のちこの命館大學各教授歴任。二十八年日本學士院會員。

著書『金冬心の藝術』（青木迷陽名、大正八年九月序、無刊記）、『品梅記』（合著・彙文堂編、大正八年九月十五日京都・彙文堂書店）、淡濟主人譯『通俗古今奇觀』附月下清談』（校註、昭和七年二月五日岩波書店「岩波文庫」）、有川武彦著『新陽子泣草』（編、昭和十四年四月十五日有川ひろる刊）、『江南春』（昭和十六年十一月二十日弘文堂書房）、『支那文學藝術考』（昭和十七年八月十日弘文堂書房）、『支那文學思想史』（昭和十八年四月十五日岩波書店）、『抱樽酒話』（昭和二十二年二月二十日弘文堂書房「アテネ文庫」）、『中華文人畫談』（昭和二十四年二月十日弘文堂「麗澤叢書」）、『華國風味』（昭和二十四年八月二十日弘文堂）、『清代文學評論史』（昭和二十五一年一月二十日岩波書店）、『袁枚著『隨園食單』（校註、昭和五十九年五月十日岩波書店「岩波文庫」）、『華國風味』（昭和五十九年五月十日岩波書店「岩波文庫」）等。

文獻、麗澤叢書『中華八十名家言行録』青木止竟博士還曆記念』（昭和二十二年一月十日弘文堂書房「麗澤叢書」）等。